

賛助会員募集について

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所では、当NPO法人の目的および事業に賛同して事業を賛助する個人及び団体会員を募集しています。
是非、当NPO法人の趣旨にご賛同いただき、会員としてご協力下さいますようお願い申し上げます。

賛助会員	入会金 10,000円	年度会費	
		個人・団体	一口5,000円 ※一口以上からのお申込み

入会ご希望の方は、当研究所まで電話またはFAX、E-mailにてお知らせください。申込書をお送りいたします。
電話番号：03-6432-1621 FAX番号：03-6432-1622 E-mail：info@montessori.or.jp

東京モンテッソーリ教育研究所 令和5年度収支決算

収入の部		単位:円
会費収入		
	個人	240,000
	団体	10,000
受取寄付金		
	受取寄付金	62,540
事業収入		
	教員養成事業	14,649,400
	指導者支援事業	144,000
	広報事業	0
雑収入		2,217
経常収入合計		15,108,157

支出の部		
事業費		
	教員養成事業	11,361,870
	指導者支援事業	118,060
	広報事業	219,614
管理費		
	役員報酬	150,000
	人件費	62,253
	外注委託費	1,800,000
	会議費	46,348
	通勤費	153,545
	旅費交通費	21,543
	通信運搬費	158,988
	消耗品費	98,896
	印刷製本費	7,241
	感染症対策費	23,429
	光熱水費	32,042
	賃借料	356,316
	租税公課	158,800
	雑費	183,391
	振込手数料	14,498
経常支出合計		14,966,834

当期収支差額	141,323
前期繰越正味財産額	60,694,692
次期繰越正味財産額	60,836,015

令和6年5月11日 上記の通り相違ありません。 事務局長：青木和美

編集後記

「T.I.M.E.」第17号をお届け致します。コロナ感染症が落ち着いたと思ったら、パレスチナ・ガザ地区の中東情勢、ロシアのウクライナ軍事侵襲など、モンテッソーリの目指す平和はまだまだ遠いようです。しかし私たちモンテッソーリアンは、人の命を守り、世界文化が破壊されても、平和への努力を続けなければならないと思っています。(江島正子)

令和5年度研究所活動報告

1. 会員の動向（令和6年3月31日現在）
 - ①新規入会 正会員 個人 0名 賛助会員 なし
 - ②退会会員 正会員 個人 0名 賛助会員 なし
 - ③会員数 正会員 個人24名
賛助会員 1団体（2口）
2. 活動報告
 - ①教員養成事業 令和5年4月 第18期生 18名入講
令和6年3月 第17期生 24名修了
 - ②指導者支援事業 令和5年8月 第13回実践実技研修会開催
於 富坂キリスト教センター1号館
「文化教育」
 - ③ホームページ等による広報事業
「モンテッソーリ教育」（学会誌）第55号に広告掲載、令和5年11月に「T.I.M.E.」第16号を発行。ウェブサイトを通し、広く一般に東京モンテッソーリ教育研究所及び、付属教員養成コースの活動を発信し、モンテッソーリ教育の普及活動を行った。
<https://montessori.or.jp/>
以上
事務局長 青木和美

令和7年度入講生募集のお知らせ

募集定員：土曜コース 25名
※受講場所は東京都世田谷区深沢になります。
出願期間：令和6年11月20日（水）～
令和7年1月14日（火）
出願書類：願書・受験票（所定用紙・写真添付）
最終学校の卒業証明書又は、卒業見込証明書
選考料の振込み金受領書のコピー
選考日程：令和7年1月19日（日）午後1時集合
選考場所：宗教法人カトリック無原罪聖母宣教女会
選考内容：小論文（レポート）・面接
※詳細・入講案内は事務局までお問い合わせください。
Tel. 03-6432-1621 Fax. 03-6432-1622
Email: info@montessori.or.jp

第17号 No.17

令和6年11月1日発行
November 1, 2024

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所
T. I. M. E.
Tokyo Institute of Montessori Education

<https://montessori.or.jp/>
Chair Person Yumiko Hiroswa General Secretary Kazumi Aoki
理事長 廣澤弓子 事務局長 青木和美
Editors Ph.D. Masako Ejima Kazuko Hotta
編集委員 江島正子 堀田和子

〒158-0081
東京都世田谷区深沢8-13-16
宗教法人カトリック無原罪聖母宣教女会内
Missionary Sisters of the Immaculate Conception
8-13-16 Fukazawa
Setagaya-ku, Tokyo, Japan
Tel. 03-6432-1621
Fax. 03-6432-1622
✉ info@montessori.or.jp

巻頭言

個性的人格としての 幼な児へのまなざし



東京モンテッソーリ教育研究所付属教員養成コース コース長

前之園 幸一郎

モンテッソーリは日常的な観察を通じて、子どもの内面の精神的側面に深い神秘さを見出しました。それは、それまで理解されることのなかった「幼な児のもつ新しい姿」だと述べています。「子どもの家」で大人の様々な抑圧から解放されて、子どもたちがのびのびと成長し、一人ひとりが自分の真の姿を現していく落ち着いた様子は、モンテッソーリに深い反省を迫りました。私たちは無意識のうちではあれ、「人類のか弱い部分に対して古くから多くの重大な過ちを犯してきた」と彼女は述懐しています。モンテッソーリは、大人という強者の社会の真ただ中に生きることを余儀なくされている「弱い人間の群れの存在」に気づいたのです。大人による無自覚の抑圧が子どもを苦しめているのです。大人は、自分自身の生活を基準にして幼な児を大人の意志に従わせ、意のままに動かそうとします。それは、子どもはいつか社会人として生きていかなければならないから、幼児期から大人の環境に適用するよう配慮する必要があるとの単純な考えによるものです。「内的生命の不思議な諸能力」に由来する子どもの自発的活動は、大人の干渉によって抑圧され隠されてしまっていることがあらわになりました。

幼な児が、それ自身かけがえのない人格であることはまともに考えられたことがありませんでした。大人から一方的に助けられているか弱い存在としてしか見られず、人間的権利は取り上げられてしまっていました。それに対してモンテッソーリは「幼な児であっても、他のすべての人間と同じように、かれ独自の人格を持っています。自分のうちに創造者としての精神の美しさと品位、清純で敏感なところを持っています」と述べています。子どもが個性的な人格の主体であるとする基本的立場は、モンテッソーリ教育全体の根底を支えています。その子ども観から以下のような未来を展望する言葉が紡ぎ出されたと思われます。

「子どもはわれわれを取り囲んでいる暗闇に輝く灯火をもたらしてくれます」『教育と平和』、「子どもは人類にとって希望であり約束です」『教育と平和』、「子どもは輝かしい未来に我々を導くことのできる内的な能力を持っています」『教育と平和』、「子どもを通じて私たちに大きな希望と新しい展望が開けます」『子どもの精神』、「人々が完璧で調和的な相互理解に達する唯一の希望は子どもです」『子どもを通しての人類の統一』、「将来の平和への期待は、大人が子どもに教えることのできる教育内容の中にはなく、新しい人間の然るべき成長の中にあるのです」『教育と平和』。

教員養成コース近況報告

東京モンテッソーリ教育研究所 理事長 廣澤 弓子

NPO 法人東京モンテッソーリ教育研究所附属教員養成コースは、平成8年4月に文京区富坂のキリスト教センターにおいて開講されました。この度、ご縁があって世田谷区深沢の無原罪聖母宣教女会に移転することとなりました。振り返れば、当コースの前身である上智教員養成コースはうめだ子どもの家にて始まり、その後上智大学、富坂キリスト教センターを経て、今回の無原罪聖母宣教女会に移り、3回目の移転となりました。

令和6年4月より既に19期生1年生の講義が始まっております。無原罪聖母宣教女会は世田谷区深沢の桜並木に囲まれた閑静な住宅地に位置し、玄関を入ると修道院の静けさと清々しさを、また教室からは広い庭のたくさんの緑が窓から目に映り、自然の豊かな恵みの中にいることを感じます。

マリア・モンテッソーリは、子どもを取り巻く環境の大切さについて多く語っていらっやいます。私たち大人もただ学ばよいくということだけではなく、環境から自然の生命、自然の秩序の中にいる自分たちを実感しながら、それをもってお子さんたちの前に立っていただけたらと願っています。

現在、富坂キリスト教センターでは、18期生2年生が学びを続け、来年3月に修了となります。これまでこの場所で学び修了された皆様にとっては懐かしいいろいろな思いの詰まった場所ですから、コース移転は寂しく感じられるかもしれません。どうぞ新しい学びの場所・無原罪聖母宣教女会にもお顔を見せてください。お教室に入ればきっと同じ教具・教材があることにホッとされると思います。

富坂キリスト教センターでは、関係者の皆様に環境整備のため幾たびも多大なご協力をいただき本当にありがとうございました。おかげさまで学生も安心して学びを続けることができました。改めてここに深く感謝申し上げます。



新たな発見

研修生 野田洋一郎（東京・第17期生）

コースを卒業して間もなく、研修生として講義を一から受講できることは、何にも代えがたい喜びで、毎回新たな気づきにはっとしています。

受講生のときは、ノートを完成させることばかりに気を取られ、細かいポイントは抜け落ちていたのだと痛感しています。研修生として自作のノートを見ながら、講師の方々の提示を少し俯瞰して拝見すると、提示の本当に細かいポイント（子どもが理解しているかを確認するアイコンタクト、両手ではなく右手だけで並べ替えをすること・・・など）にも目がいきます。

また、網羅的なモンテッソーリ教育の理論を理解した上で提示やノートを再度見ることや、他の教科のノートも完成した状態で提示を見ることで新たな気づきもありました。

ノートの随所をブラッシュアップすることができて、より良いノートに近づいたと思います。

受講生の方々の真剣な質問も大変興味深く拝聴しています。私が受講していたときには出なかったような質問も多く、それに対する講師の方々の丁寧な返答や解説を聞くことで大変参考になることも多くあります。

例えば、ピンクタワーで子どもが大きい順に積まない場合、その子どもは運動感覚が敏感で「先生は積んだ」ということに注目しており、「大きい順に積んだ」とは認識していないことがあるため、積む順番がばらばらでも「積んだね」と言って、子どもの気づきを認めることが本当に大切なのだと再確認しました。

まだまだ研修生として受講を始めて少しですが、この1年間でモンテッソーリ教育の知識や理念、提示の細かい動作などをしっかりと身につけていきたいと思います。

モンテッソーリ協会（学会）主催 第57回全国大会のご案内

日時 2025年7月30日、31日、8月1日の三日間

会場 パシフィコ横浜 会議センター

テーマ 「次世代への責任」ーモンテッソーリ教育の視点から

ワークショップ 東京モンテッソーリ教育研究所附属教員養成コースが担当です。

文化領域の「創造の実験」を中心に各領域が「コスミック教育」を主テーマに提供を紹介します。

皆さまのご参加をお待ちしています。横浜でお会いしましょう。

第57回全国大会実行委員長 堀田和子（当附属教員養成コース主任）

東京モンテッソーリ教育研究所附属教員養成コース令和6年度特別講義

「すべての子どもを包摂するモンテッソーリ教育」

（インクルーシブ教育とモンテッソーリ教育の関係・モンテッソーリ教育の深化・追求と専門性）

2024年9月18日（水）18時～20時

講師：佐々木信一郎先生 日本モンテッソーリ協会（学会）会長（理事長）、社会福祉法人聖母愛真会理事長、一般社団法人日本モンテッソーリ発達支援研究センター代表

記録：東京モンテッソーリ教育研究所 言語講師 伊藤千恵子

今年度は記録的な炎暑の中、日本モンテッソーリ協会会長であられる佐々木信一郎先生をお招きして特別講義が行われました。

今世界は、そして日本は、教育で何を求められているか？という大きな問いかけから始まり、分離教育から統合教育そして包摂教育への長い道のり、それぞれの教育の考え方の違いをととも分かりやすい説明とインクルーシブ教育とモンテッソーリ教育の類似点についても解説があり、深く考えさせられた内容でした。

1980年代ごろから日本では障害児を受け入れている保育のことを、統合保育という名称で呼ばれてきましたがこれは健常児が基準であり、特別な配慮をして支援児も一緒にいる（統合する）ことができる保育を目指したものでした。しかし、健常児を前提とした保育を計画し、それに支援児が参加できるように配慮・支援を行うという保育の中で個別や小集団の場で訓練されることがあり、支援児に対して何か専門的な手立てをする必要があるかもしれないが、多くの保育者から保育の基本と大事にしてきたことと違うのではないかという戸惑いがありました。

インクルーシブ教育とは支援児だけが特別な子どもという見方に立たず、健常児もひとり一人が違うこと（多様性）を前提とする、すべての子どもがひとり一人かけがえのない、特別であり異なる子どもであることが基本である。という考えにまさにモンテッソーリ教育に類似していると深く感動いたしました。

モンテッソーリ教育は確かに個別教育でひとり一人をよく観察して困難さを理解し、対応、支援、教育することが大切であり、そのひとり一人への対応がより良い集団生活（優しさ、思いやり、感謝）へと導いていくことを日々の活動で感じております。

社会や家庭が変化し、子どもの姿が多様化する保育現場において、ひとり一人の意見を尊重し、未来を担うひとりの人間として成長していくことを願う、貴重な学びの機会となりました。



第14回実践実技研修会報告 令和6年8月24日（土）10時～16時

日常生活の活動担当講師 溝脇しのぶ 竹田 恵 太田美奈 田島理子

モンテッソーリ教育において、子どもの日常生活の活動が、人間教育の基盤として重視されていることは周知のとおりです。この夏の研修会では、保育現場における「人間教育の基盤」に焦点を当て、基本に戻りながら、子どもの成長の基礎を育む環境について考察しました。現在、幼稚園や保育園に勤務している講師たちが、それぞれの園で行っている環境づくりの取り組みをシンポジウム形式で発表した後、参加者は、グループに分かれ、自由に意見を交換し、最後に全体で分かち合いを行いました。

午後からは、「縫う」「切る」「貼る」といった基本的な指先の練習の提示と共に、それぞれの活動の前段階の活動教具の紹介を行いました。

「縫う」「切る」「貼る」を組み合わせた発展的な活動も紹介した後、参加者は実際に見本づくりをしました。実際にやってみることで、子どもの大変さがわかったり、集中して活動に向かっている自分に気づいたりする場面があったかと思えます。そして完成した時の達成感を、子どものように味わっていただけたのではないかと思います。

文責 溝脇しのぶ

